

先端産業と次世代技術、知的集積産業という転換

令和6年9月1日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

ICチップや、航空機、OS、など新たな基幹産業は、飛躍的な技術進歩において次世代という新しい現実と知的集積における高い利益性を現実を与えるものである。

これらは資本力における開発と生産が注目されるものであるが、個人の理解や創造性がそれに優れるという現実も他方に与えられるのである。

これは知的進歩性における創造性と生産性が、現実を可能とできるものであり、理解の深耕という人材の育成は、これら産業の育成を実現できるのである。

これらは理解の共有と深耕における次世代産業の育成と資本の投入、知的集積産業は知性における進歩性が唯一現実を与えるものであるという理解は正しいのである。

これらは他方において企業の次世代システムへの意向は知的集積産業という概念が全ての産業分野において存在しそれら新たな現実はより優れた企業の生産性や製品構築における可能性を有するのである。

これらが今日における第2の産業革命の真実であり、自由経済システムにおける創造性は、経済が未来を牽引するという現実を与えているのである。

これらは企業におけるソフト資産が新たな価値を有し、それらが新たな創造性と主に経済を牽引できることを意味するものである。

唯一新たな基準は存在し、その基準における企業経営と参加はそれら現実における条件である。これらは全ての企業が次世代という新たな基準における自己構築を求められているという現実は正しいのである。

これらは完全な現実の転換が存在し、新しい資本基準や製品基準、生産基準における自己への転換が新しい現実への参加を可能とできるという現実を与えるのである。

これら新しい市場においては新しいルールと基準が存在するのである。